

# 事業は氷河の水が絶えるまで

「見捨てられた人々への、変わらぬ祈りと温かいご関心に感謝します。事業は世代から世代へ、氷河の水が絶えるまで続けられます。現地PMS一同もまた、祈りを合わせ、この仕事を自らの励みとし、更に意気軒昂けんこうです。良いクリスマスと新年をお迎え下さい。」

——中村 哲 (ペシャワール会報130号・2016年より)

## 41年目を歩み始めるために

——中村医師の思索と行動を辿るたど

PMS(ピース・ジャパン・メディカルサービス)総院長・ペシャワール会会長 村上 優まさる

### 忘れ去られるアフガニスタン

二〇二三年、PMSの活動しているナンガラハル州のクナル河流域や、同州南部のバラコットでは、灌漑かんがいの恵みや用水路建設の期待で、明るい話題が多い。一方、それ以外の地に目をやると、干ばつの被害は深刻で、住むことすら難しくなっている地域がある。ケシユマンド地区のイスラムダラもその一つで、七月に灌漑工事の可否をめぐって調査した時点では、かろうじて耕作地の跡を残すのみ、荒漠とした谷間になっていた。山々に雨は降っても局地的で、短時間に十数mm程度だが、地面に吸い込まれる間もなく、谷を鉄砲水として流れ下り、土石流になって被害をもたらす。

アフガニスタン全土が未だに干ばつにさらされているのである。二〇二一年夏にタリバン政権が復活して以降、世界中から政治体制批判が繰り返されているが、アフガンの人々の本当の窮状には関心が払われ

ていない。アフガニスタンは孤立し、忘れ去られていくのだろうか。

そして十月七日に起きたアフガニスタン西部ヘラートの地震。マグニチュード6・3が四回あり、本震並みの余震も続いて被害を大きくしている。にもかかわらず、経済制裁は続いている。幾重もの不幸にさいなまれているとしか言いようがない。

中村哲医師は一九八四年の現地事業の初めより、この地で様々な不幸に向きあってきた。ここで、医療活動から干ばつに対する「水計画」への転換期である二〇〇〇年前後を振り返ってみよう。二三年後のアフガニスタンの現況と酷似しているからである。当時の中村医師の「思索と行動」は、我々が今後何をなすべきかの指針となるだろう。

### 事業そのものが希望

一九九六年に第一次タリバン政権が樹立したが、国際世論は現在と同様に非難一色だった。



ダラエヌール溪谷。灌漑用井戸から放水する中村医師  
(2002年4月11日)

一九九八年、中村医師はペシャワール会の現地活動十五年を第一期として終え、次期三〇年に備えようとしていた。ただし、それはあくまでもハンセン病患者や最貧困層を対象とする医療に主眼を置くものであった。アフガニスタンとパキスタンにまたがる山岳農村地域で、次々に診療所を開設し(ダラエヌール、ダラエピーチ、ワマ、ラシュト、コーヒスタン)、その活動をサポートするためにPMS基地病院をペシャワールに建設していた。その背景には、ハンセン病根絶プロジェクトは終わったものとするパキスタン側の行政によって、貧しい患者たちが

見捨てられる現状があった。医療スタッフ間の不和・軋轢<sup>あつれき</sup>などを乗り越え、具体的な活動を通して、不動の診療体制をつくるべく奔走していたのである。

中村医師は、世界のさまざまな対立を見据え、会報五六号(一九九八・七)で次のように述べている。

「身近な核戦争の恐怖は(一九九八年五月、インド・パキスタンが核実験)、世紀末的な不安を蔓延<sup>まんえん</sup>させた。この中で、私たちの活動が、対立を融和に、敵意を平和に転化し、金や権力で揺るがぬ不易<sup>ふえき</sup>のものを求め、確実な事業を通してそれを実証するための希望となっている。新たな出発は、時代に対する一つの挑戦である」

その後、会報六四号(二〇〇〇・七)までの二年間、中村医師は紆余曲折を経て、PMSの診療活動を確立していく(『中村哲思索と行動』上巻三五四―三九三頁参照)。

### 二〇〇〇年 水計画の始まり

「飲料水を確保し、『終末』<sup>たいじ</sup>に対峙せよ」と題された報告(二〇〇〇年十月、会報六五号)は突然であった。

二〇〇〇年七月、水不足で汚い水を飲むために生じた赤痢の大流行を目の当たりにした中村医師は、問題の大きさに驚き、ダラエヌールを皮切りに清潔な飲み水を得るために井戸を掘る「水計画」をスタートさせた。「それは、現在のアフガニスタンの象徴で

あった。干割<sup>ひび</sup>れた段々の土地が、昨年まで緑豊かな水田だったとは誰も思わないだろう。頭上をロケット弾がかすめる。遠くで機関銃の音がこだまする。我々は足元で小さくと鳴る乾いた粘土質の土を踏みながら作業場に着いた」

アフガニスタンに現れた地球温暖化の第一報である。中村医師は最高峰七千mを超えるヒンズークシユ山脈の雪線(夏場の万年雪の標高)が以前は三千五百mだったのが四千mを超えるようになったこと、ラシュト地区では、氷河の崩落や氷河湖崩壊などこれまで体験しなかった気候現象が起きていくことを語っていた。

電撃的な水源確保活動は、現地では驚きと称賛をもって迎えられた。三週間で二〇〇カ所の井戸建設に着手したPMSの動きは奇跡に近く、中村医師は会員の皆様による強力な財政支援があったことに感謝を述べている。彼の見立てと決断は会報六六号・六八号に次のように記されている。

「アフガニスタンの実情は世紀末どころか、世界的な終末の始まりを感じさせるもの」「アフガニスタンの大旱魃<sup>かんばつ</sup>は、世の政争や騒々しい自己宣伝をよそに、やがて全世界規模で起きる戦慄すべき出来事の前哨戦に過ぎないように思えます」

こうして中村医師は「私たちの仕事が見捨てられた多くの人々の慰めとなり、ひとつの灯火として存続することを願って」、マ

ルワリード用水路建設からPMS方式灌漑事業へと突き進んでいった。

### 中村医師の報告を裏づける

#### 『アフガニスタン・ペーパーズ』

「水計画」事業の最中でのアフガン空爆だった。二〇〇一年十月の会報六九号には、9・11同時多発テロ事件と米国の報復行動（空爆）によって起きたカブール市民の日々の様子を「逃げ場のない人々は半ば諦めて死を待つに等しい」と報告し、「巨大な難民キャンプと化した一〇〇万都市カブールが、一人も餓死者を出すことなく今冬を乗り切り、難民化を避けて平和な市民生活を送るため、ここに大規模な行動を起こす」ことを決断、心ある人々の支援もあって、命がけの食糧援助を敢行した。

タリバンが退去して米国が擁立した新政権ができた頃、中村医師は「緑の大地計画」を立案し、二〇〇三年よりルワリード用水路の工事に着手した。

第一次タリバン政権崩壊後のアフガニスタンの実情は、二〇二一年に米国で出版された『アフガニスタン・ペーパーズ』（副題はA Secret History of the War 日本語訳は二〇二二年、岩波書店）に詳しい。ワシントン・ポスト紙の調査報道記者による本書は、戦争に加担した米国政府高官・軍人など千人以上のインタビューに基づいており、この戦争のおぞましき、無計画性、腐敗と不正

と隠蔽が赤裸々に記録されている。

本書を読んで改めて驚嘆するのは、いかに中村医師の報告が真実であったか、今のアフガニスタン、さらには世界の状況をいかに正確に中村医師が予測していたかということである。当時、中村医師の声は多くの人びと——政治家、メディア、世論——から無視され、否認されていた。中村医師は言う。

「タリバン政権の崩壊は、取り返しのつかぬ無秩序と、人々の苦境を生み出したといえる。『解放』されたのは、麻薬栽培の自由、餓死の自由、アフガン人が誇りを失う自由である。今後『アフガン問題』への関心は急速に薄れるが、国際社会は一連の出来事の根底から読み取れる地球規模の破局に気づいているとはいえない。将来、再び『アフガニスタン』が話題になるとき、自らの足許に及ぶ厄災を知ることになるだろう」（会報七一号、二〇〇二・四）。

『アフガニスタン・ペーパーズ』には干ばつに関する言及はない。米国からの視点に地球温暖化、異常気象、干ばつが全く欠落していたことの証左である。米国には困窮するアフガニスタンの人びとのことは眼中になかったと言えよう。

中村医師は試行錯誤しながら用水路工事を進めていったが、同時に私たちへ警鐘を鳴らすことも忘れてはいなかった。会報七二号（二〇〇二・七）の文章を引用する。

「未来を予測するのは、いくぶん怖ろしい。『アフガニスタン』は何かの終局の始まりを暗示している。それが何なのか、一介の医者が述べるには分際を越えるが、レミングの群の死の行進でないことを祈る。強調したいのは、世の流れから超然と、覚めた目で現実を見透し、我々自身の行方を真剣に考える時期が到来したということである。時流に乗せられて『不安の連動』に身を委ねてはならない。私たちのささやかな活動に意味があるとすれば、世界の片隅で起きた出来事の実を伝え、いのちへのいたわりを思い起こし、以って吾が身を省みるよすがとすることであろう」

### 中村医師を継承するとは

中村医師は世界を支配するのは「カネと暴力」と断じて、その対極にある世界を紡ぐように現地事業を推し進めてきた。それを可能にしたのは支援してくださる人々の良心である。今、世界中で暴力への敷居が極端に低下し、戦争が各地で起きている。一方で、地球温暖化の影響は顕著で凄まじさを増すばかりである。このような時代に、中村医師の言葉と行動は希望の灯ではないだろうか。

四〇年間、中村医師の、PMSの、そしてペシャワール会の事業が弛まず続いたことを感謝し、支援者の皆様と共に四一年目を歩み始めたい。